

令和6（2024）年度
事業報告書

学校法人 二階堂学園

目 次

I. 令和 6 (2024) 年度事業報告	1
日本女子体育大学	5
日本女子体育大学附属二階堂高等学校	7
我孫子二階堂高等学校	9
日本女子体育大学附属みどり幼稚園	11
二階堂幼稚園	13
日本女子体育大学附属保育園	17
II. 財務の概要	19

I.令和6(2024)年度事業報告

令和6(2024)年度は、令和7年4月1日付で私立学校法が改正されることに備えて、寄附行為の変更や、それに伴う諸規程等の整備を行った。

施設設備等の整備事業としては、東京都の都市計画道路予定地に所在する大学の第6体育館、南校舎、基礎体力研究所の解体工事を開始し、我孫子高校の第1体育館床・屋根の改修工事、二階堂幼稚園のホール照明のLED化、屋根の改修工事等を実施した。

以下は、各設置校・園の事業報告の概要である（各校・園の事業報告詳細は5ページ以降参照）。

<日本女子体育大学>

令和6年度は、7年ごとに必要な外部認証評価の受審を最重要課題として取り組み、10月に現地調査を受けて「基準適合」と認定された。教員人事は、中途退職者と年度末退職者に対応する補充採用人事を行い、4名の採用と一部教員の配置変更を行った。研究活動では、全教員に科学研究費獲得を奨励して採択件数を増やすことができ、さらに充実を図るため事務局に研究支援課を設置した。学生募集については、指定校の追加や教員による訪問活動、同窓生からの特別選抜制度の実施、来校型イベントの充実など学生確保に繋げる具体的な改革を行ったが、入学定員充足には至らなかった。今後は高大連携の増加を検討していきたい。学内環境整備に関しては、新棟の運用開始と研究室移設等の対応を行った。また、第3体育館1階に基礎体力研究所を移転し、研究を充実させる準備を整えた。社会貢献活動等は、大学主催事業や地域交流講座等を積極的に実施した。

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

生徒募集を成功させるために、教員には危機感をもって学校運営に携わるよう促してきた。生徒の満足度を上げるには、各教員の指導力の向上が不可欠のため、各種研修会への参加を促し、ICT機器を活用して、生徒や保護者へのきめ細かい対応を行ってきた。環境整備については、錆が目立っていた箇所の塗装や体育館照明のLED化など、老朽化が進んでいたところから優先的に改修を行い、大きく改善した。学校評価を高めるためには地域社会からの信頼も重要なため、地域との交流にも尽力した。また、進学実績向上のために、志望理由書や小論文の指導、面接の練習などに全教員で対応した。特に、日本女子体育大学への志願者増につながるよう、1・2年生だけでなく、学校説明会の全体会で中学生にも日本女子体育大学の案内を行うなど、高大7年間の学びについて周知した。DXを活用した広報活動を充実させ、魅力ある選ばれる学校づくりに全教職員で取り組んだ。

<我孫子二階堂高等学校>

186名の入学生を迎え、新カリキュラムに完全移行した1年目は、主体的な学び、個別最適化した学びと基礎学力向上、学び直しを関連させ、進路実現を目指す教育を行った。土曜講座、校内塾などの取り組みが軌道に乗り、教育内容はさらに充実し、課外活動を含むすべての教育活動に活気が出た。また、多様な生徒・保護者を包摂する柔軟な対応などが評価され、受験生や次年度入学生の大幅増加に繋がる結果となった。しかし、高等教育との接続やグローバル化、教員不足など課題も山積しており、高校としての経営基盤をしっかりと保ちながら社会情勢に合わせて改善を図りたい。

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

園児一人ひとりが自ら学び、主体性をもって生活できるよう、日々教員が工夫しながら保育を行った。園児たちは、自分の思いをのびのび発言したり、考えを共有したりしながら、感性豊かに過ごしていた。行事はコロナ禍以降初めて来園人数の制限なく実施し、園の様子を公開した。また、園外保育を積極的に行い、自然や動植物に触れるなど様々な体験をさせることで、興味関心を広げた。安全面では、南駐輪場に外灯を設置したことで夕方以降の安全の確保ができ、保護者に安心してもらえるようになった。募集活動では、説明会や見学会、給食試食会の機会を増やして園の魅力を広くアピールでき、プレ保育（みどりクラブ）を充実させたことにより、募集人数以上の園児獲得に繋がった。

<二階堂幼稚園>

心身共に健康に成長していくことができる保育を目指し、運動面では日本女子体育大学の子ども運動学科や基礎体力研究所と連携し、年少児から年長児まで全学年の運動遊びの充実を図ることができた。また、プール指導や自然環境を活かした運動遊び等にも積極的に取り組み、運動能力や体力の向上に繋げた。食育では、給食室との連携を図り、年長児がオリジナル給食を考案し、食への興味を深めた。また、給食を作ってくれる方々との交流の機会を持ち、感謝の気持ちを更に高めることができた。安全面では、様々な災害やバスの送迎、遊具の劣化などの対策を行い、園児や保護者が安心安全だと感じられる環境を整えることに努めた。募集及び広報活動は、満3歳児の早期受け入れを実施し、人数も増やして園児獲得に繋げた。また、就労している保護者のニーズに合った内容の預かり保育を行い、保育園から幼稚園への入園者を増やした。

<日本女子体育大学附属保育園>

園児一人ひとりの最善の利益を第一に考え、園児たち自らが興味を持ち、主体的に遊べる環境を用意し保育を行った。日本女子体育大学の基礎体力研究所と連携し、研究への参加や幼児の運動能力測定を行い、日常の保育に反映させて体力の向上に繋げた。運動会を大学総合体育館アリーナで、発表会を二階堂トクヨ記念講堂でそれぞれ実施し、多くの保護者や関係者を招くことができ、好評を得られた。「とうきょう すくわく プログラム」に参加し、『水』をテーマにして園児が主体的・協働的に探究活動を行うことができた。また、地域活動では、近隣の高校生や小中学生をボランティアで受け入れたり、園庭開放に多くの未就園児が参加して、在園児と関わりを持つことができた。

以 上

各校・園の事業報告詳細（5 ページ以降）の自己評価については、達成度を以下の基準で判定したものである。

- [A] 事業計画作成時に想定した目標を達成できた
- [B] 概ね目標を達成できたが一部に不十分な事項を残している
- [C] あまり成果を挙げることができなかった又は何らかの支障があり実施できなかった

1. 設置する学校の名称及び入学定員と学生・生徒・園児数

学 校 名 (所 在 地)	学部・学科等名	開設 年度	入学定員	収容定員	R6.5.1 現員
日本女子体育大学 〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1 学長 深代 千之	大学院 スポーツ科学研究科修士課程	年度 H5	人 15	人 30	人 36
	体育学部	S40	-	-	4
	運動科学科(R2 募集停止)	H11	-	-	2
	スポーツ健康学科(R2 募集停止)	H11	-	-	2
	スポーツ科学科	R2	220	880	732
	ダンス学科	R2	100	400	398
	健康スポーツ学科	R2	180	720	644
	子ども運動学科	R2	40	160	134
	計			555	2,190
日本女子体育大学附属二階堂高等学校 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 校長 石崎 朔子	全日制課程普通科	S23	200※	600	222
我孫子二階堂高等学校 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 校長 中島 太	全日制課程普通科	S42	260※	780	438
日本女子体育大学附属みどり幼稚園 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 園長 大平 春美		S22	88	280	249
二階堂幼稚園 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 園長 志田 一美		S51	90	270	208
日本女子体育大学附属保育園 〒156-0055 東京都世田谷区船橋 7-20-16 園長 牟田 郁子		R2		93	88

※日本女子体育大学附属二階堂高等学校と我孫子二階堂高等学校の入学定員は、学則上の人数。

2. 令和6年度 応募・合格・入学者数

学 校 名	学部・学科等	入学定員	応募者数	合格者数	入学者数	備 考
日本女子体育大学	スポーツ科学研究科	15	17	16	16	
	大学院小計	15	17	16	16	
	スポーツ科学科	220	252	243	179	
	ダンス学科	100	108	102	92	
	健康スポーツ学科	180	213	205	135	
	子ども運動学科	40	30	28	25	
	学部小計	540	603	578	431	
	大学合計	555	620	594	447	
日本女子体育大学附属二階堂高等学校		160	138	130	76	
我孫子二階堂高等学校		200	1,211	1,171	186	
日本女子体育大学附属みどり幼稚園		88+若名	95		91	
二階堂幼稚園		90+若名	53		52	
日本女子体育大学附属保育園					22	

3. 役員・評議員・教職員（R6.5.1 現在）

【役員】

理事	理事長	石崎 朔子		
	常務理事	大西 史記	深代 千之	石塚 浩
	理事	中島 太	溝口 紀子	山下 敬緯子
		浅田 眞弓	宮嶋 泰子	桑島 俊彦
監事		伊勢呂 裕史	岡本 由美子	

<令和6年度役員賠償責任保険契約の状況>

(1) 団体契約者	日本私立大学協会
(2) 被保険者	記名法人…学校法人 二階堂学園 個人被保険者…理事、監事、評議員
(3) 補償内容	
① 役員（個人被保険者）に関する補償	法律上の損害賠償金、争訟費用等
② 記名法人に関する補償	法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
(4) 支払い対象とならない主な場合	法律違反に起因する対象事由等
(5) 保険期間中総支払限度額	5億円

【評議員】

溝口 紀子	小海 隆樹	羽生田 真一	大平 春美
小池 匠	志田 一美	牟田 郁子	柳澤 康彦
嶋住 英夫	山下 敬緯子	寺山 喜久	廣田 博子
高橋 真喜	高荷 敏之	大間 香奈江	小野 貴子
吉良 加奈	市川 真知子	上治 丈太郎	工藤 公彦
穴戸 良子	鯛谷 和代	中島 太	福岡 孝純

【教職員（専任）】

大学教員	82名
高等学校教員	49名
幼稚園教員	29名
保育園保育士	13名
職員	68名

4. 管理運営の概要（理事会等の開催状況）

会議名	令和6年度開催
理事会	7回
評議員会	6回
常務理事会	16回（うち書面開催1回）
学園連絡会議	11回（うち書面開催3回）

<日本女子体育大学>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育	今後の世代交代を見据えた教員人事とカリキュラム整備の推進	令和 5 (2023) 年度末の退職者に係る補充採用、令和 6 (2024) 年度途中退職者及び年度末退職者に係る補充採用の人事を実施し、合計 4 名の教員を採用し、一部教員の配置変更を行った。また、令和 7 (2025) 年度末の定年退職者に係る補充採用の人事計画検討の作業を進めている。	B
	大学院改革の推進	昨年度同様に、学部生向けの入試説明を対面及びオンラインの併用で実施し、多くの受験者を集めることができ、定員を越える入学者を確保した。また、カリキュラム改革を伴う学則変更を行い、学生の修学支援にも対応した。	A
	学長ガバナンスに伴う組織運営の改革	10 月 10・11 日に大学機関別外部認証評価を受審し、内部質保証体制の整備等を進めている。	A
研究活動	教員の研究推進	科学研究費助成事業は新規・継続含め研究代表者 12 件、研究分担者 23 件が採択された。また、事務局に新たに研究支援部門を設け職員を採用した。	A
	FD 活動の充実	FD 委員会と将来構想検討委員会の共催による研修を 9 月 11 日に学部全体で実施した。また、大学院独自の FD 研修会を 9 月 2 日に実施した。	A
	研究上の不正防止体制	不正防止計画推進委員会による年間 4 回の啓発活動と年間 1 回の研究倫理教育研修を行い、新規程に基づく科研費の執行に関する内部監査を実施した。	A
募集及び広報活動	確実な入学定員を目指す入試制度の改革	より多くの受験者確保のために指定校を増やし、同窓生からの推薦を拡充するために特別選抜制度を設け、各募集枠の人数配分を変更する等の改革を行った。最終的な入学者は昨年度を上回ったが、ダンス学科以外は定員充足を達成できなかった。	B
	活発な学生募集イベントの展開	オープンキャンパスを年間 7 回実施し、7 月 26 日にナイトオープンキャンパスを実施した。他に、ちょこキャン (縮小型見学会)、部活動体験 week、健美祭と同時開催のミニオープンキャンパスなど、様々なイベントを開催した。	A
	学生募集に繋がる大学主催事業の実施	8 月 23・24 日にダンス・ワーク・セミナーを開催した。	A
社会貢献・地域連携	大学主催事業の展開	① 保護者面談会: 来校対面形式ではなくオンライン動画視聴による大学情報公開を 6 月に実施した。 ② ダンスコンクール: 11 月 23 日に参加作品全てを来場審査により行い、受賞作品を 12 月 2 日に Web 公開した。 ③ 人見絹枝杯陸上競技大会: 3 月 20 日 (木祝) に AGF フィールド (調布市) にて開催した。	A
	地域交流事業	地域交流講座の「春期」を 5 月下旬～7 月下旬に 7 講座、「秋期」を 9 月下旬～1 月下旬に 7 講座、1 月 21 日に「やさしい太極拳」を開催した。	A
グローバル化	SDG's 関連事業の推進	大学のホームページに「SDG's の取り組み」ページを開設し、学内で実施している諸活動を公開した。	A
	学内電子決済システム導入	出張届や予算執行に係る手続きに「rakumo ワークフロー」を運用し、押印決済を省略した。	A

教育研究環境の整備	学内施設の適正な維持・管理及び整備	管財課と連携して、教室等の照明 LED 化を推進し、現時点で 52%が転換している。また、学園創立百周年記念館の運用開始に伴い、管理体制の整備と施設貸出規程の改定を進めている。さらに、都市計画道路関連で、基礎体力研究所を第 3 体育館 1F へ移設した。	A
その他	外部認証評価の受審対応	6 月 27 日に日本高等教育評価機構へ自己点検・評価書等の書類を提出し、10 月 10・11 日に大学機関別認証評価・実地調査を受審した結果、基準に適合していると認定された。	A
	外部資金獲得方策の検討・推進	企業等からの外部資金獲得を積極的に進めるための体制づくりとして、企画課を中心に新たな寄付金募集制度やネーミングライツ事業制度の立案を進めている。	B

〔特記事項〕



○日本高等教育評価機構の認証基準に適合



○ナイトオープンキャンパス



○地域交流講座（左）美姿勢ヨガ、（右）膝痛予防のストレッチ＆トレーニング



○人見絹枝杯陸上競技大会



○ダンス学科「卒業公演」

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

区分	事項	結果	自己評価
教育	校訓及び教育目標の具現化	コースに特化した学びを深化させ教育の質保証を図るために、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を計画的に進めた。また、人としての自立と優しさや豊かな心を育むための教育活動を日常的に展開し、個々のニーズに対応するための特色ある幅広い選択科目を設定した。	A
	アクティブラーニングの導入	主体的に学ぶ意欲や課題発見・課題解決力を育むために、発表や議論を授業に位置づけた学習指導計画を策定し、学力の定着を図った。しかし、学力が定着していない生徒が各クラスに数名おり、より一層の工夫をしていく必要があった。	B
	特別活動の充実	ねらいを明確にして学校行事やコース行事、学年行事を企画運営して、積極的に自己実現を図らせるとともに、キャリア教育の充実に繋げた。	A
	進学実績の向上	前年度の大学進学者数 37 名（在籍数 63 名）に対して、本年度は 41 名（在籍者数 65 名）となり、前年度の大学進学率を超えることができた。また、日本女子体育大学への進学者数も、前年度の 9 名から 11 名となった。	B
	高大連携事業	日本女子体育大学との高大 7 年間の学びを具現化するため、ダンスコース、スポーツコースへの講師派遣、部活動間での交流（新体操、チアリーディング、バスケットボール、バドミントン）、各種行事等での大学施設の借用、健美祭やオープンキャンパスへの見学などを実現できた。また、中学生対象の学校説明会やイベントでの大学教員による大学案内や講演など、様々な機会での協力を受けた。また、提携大学によるデリバリー授業や上級学校訪問も実施した。	A
募集及び広報活動	入学生徒数の確保	本年度の入学生徒数 77 名に対して、次年度の入学者は 115 名となった。しかし、募集定員は 160 名（入学定員 200 名）であるため、次年度に向け、4 コースの特色が際立つような工夫と、日本女子体育大学との高大 7 年間の学びの継続を一層推し進めていく。	B
	広報活動のDX推進	今年度の学校説明会の集客が当初より昨年度を上回っていたことは、DXによる宣伝効果があったものと思われる。	B

	教育活動の可視化	本校ホームページだけでなく、YouTube や DX を活用して各種 SNS (LINE、X、Instagram、TikTok) で積極的に発信した。	B
	学外団体との連携	世田谷区松原まちづくりセンターや松原地区委員の催し、第 8 支部による街頭補導やイベントをはじめ、多くの地域社会との交流事業などに積極的に参加した。また、スクールミーティングを開催し、外部からの客観的な意見を聞くなどし、募集活動の一助にした。	B
社会貢献・地域連携	ボランティア活動と区立中学校との連携	生徒会役員を中心に松原地区主催のボランティアに参加をした。また、ダンス部が練馬区、大田区教育委員会が開催する中学生のダンス発表会において、模範演技を披露した。さらに、世田谷区立梅丘中学校には、運動会でのダンス指導と演技発表を行い、交流を深めた。	A
	世田谷区福祉避難所の開設	世田谷区と連携して、近隣在住の妊産婦・乳児及び家族を受け入れる福祉避難所を F 棟スポーツホールに開設し、1/30 に図上訓練を実施した。	A
自律学習	N-SALC の活用	運営委員会と English Speaking Club で異文化に触れるイベントを企画・実施した。また、ネイティブ講師との英会話や英語検定対策に取り組んだ。本年度は 2 名の生徒が海外へ留学した。	B
	ICT 機器の活用	授業アンケートを分析し、教員の授業力をブラッシュアップしている。ロイロノート（学習支援アプリ）や Google Workspace、Goodnotes を利用して、双方向でのオンライン学習指導を実施し、きめ細かい学習支援をした。また、BLEND（校務支援システム）により、保護者との連絡や成績の公開などを実施した。	A
その他	環境整備	大規模な雨漏り部分の改修、体育館の外階段等の錆が目立っていた箇所の塗装、体育館照明の LED 化など、老朽化が進んでいたところから優先的に環境整備を実施した。	A
	教員研修	iPad の活用について、外部講師を招いて全教員対象の研修会を実施した。また、各教員の資質や能力の向上のために、積極的に外部の研修会への参加を促した。	B
	SDGs	総合的な探究の時間に、学習教材エナジードを活用しながら各クラスで SDGs について考えさせ、生徒の取組みは中間報告として二階堂祭で展示した。また、学習発表会を 1 年間の最終報告の場とした。	B

〔特記事項〕



○入学式



○体育祭（於：大学総合体育館アリーナ）



○生徒総会



○親と子の進路講演会（中学生対象）



○合唱コンクール（於：二階堂トクヨ記念講堂）



○英語研修（於：ブリティッシュヒルズ（福島県））

<我孫子二階堂高等学校>

区分	事項	結果	自己評価
教育	① 新教育課程の実施と見直し ② ICT機器の整備と活用 ③ 進路指導の充実 ④ 社会情勢の変化に対応した生徒支援	<p>学校設置科目や土曜講座の充実により、生徒の興味のある分野について、学びの機会を充実させることができた。教員間・教科間の連携を図った授業作り、地域や保護者との連携による学校教育を目指し、より深い学びを実現できた。また、次期学習指導要領改定を見据えて、カリキュラムマネジメントの浸透、強化という課題も共通認識された。</p> <p>Microsoft365の活用により、ホームルームクラスをオンラインと併用することにより、生徒・教員ともに場所や時間を問わず、充実した活動へと繋げることができた。また、同システムを授業で利用することにより個別最適化学習を実現し、多様な学習ニーズに対応可能なことを確認することができた。</p> <p>進路ガイダンスの内容の系統化を進め、定期的を実施することで、進路に対する意識の向上を図ることができた。当ガイダンスで積極的に外部講師を招いた企画を行うことで、社会情勢に即した講座などを実施することができた。土曜講座や校内塾、普段の授業との連携を図り、上級学校の受験に向けた取り組みを強化して意識付けを行った。</p>	B
募集及び広報活動	① 受験生・入学生の獲得戦略 ② 広報活動の充実	<p>今年度も夏の体験入学の参加者は過去最高の来校者数を記録した。秋の学校説明会の参加者数も昨年度比約20%増加しており、ホームページの充実や競合校に対するターゲティング広告を打ったことも一定の効果があつたと考えられる。しかし、松戸・柏・流山といった近隣の主要な地域の受験者数は平均20%増えたものの、地元の我孫子地区は1%減とここ数年伸び悩んでおり、その検証が急務である。</p>	B

		生徒数については、昨年度 186 名の入学者から今年度は定員 200 名を大きく上回る 250 名の入学者を確保することができた。進学コースの大学・短大への進学率の高さや、マスター講座をはじめとする学び直し、校内塾などの取り組みをアピールし、単願者が増加したことや、公立高校の倍率が昨年度並みであったことで10%と高い歩留まり率となり、併願からの入学者が増えたことが定員確保に繋がった。今後は公立高校との差別化を強調しつつも、他の私立高校との特色の違いについてもアピールしていき、選ばれる私立高校となれるよう取り組んでいく。	
社会貢献・地域連携	① 地域交流事業・ボランティア活動 ② 施設の貸し出し事業	昨年同様のイベントはすべて参加し活動したが、新規のものへの参加や生徒主体の活動が思うようにできなかった。「ひらかれた学校」を目指し、外部との連携を有効に行うという課題がある。また、体育館施設などの貸し出しも計画が中断しており、補助活動収入獲得のためにも、次年度より貸出業務を再開したい。	C
施設	教育環境整備	長年課題であった第一体育館の天井及び床面の全面改修、老朽化した特別棟壁面塗装の塗り替え等を順次実施し、LED 照明への交換工事は全体の 90%以上が完了した。さらに、入学を検討する生徒が最も利用する特別棟 1 階の男子トイレ改修等、目に見える箇所の環境整備を実施できた。一方で、電気系統やエアコン等の設備の経年劣化により修繕箇所が増えており、今後も学園本部への働きかけや、同窓会・保護者の会・後援会からの金銭的支援も引き続き調整していく必要性を感じている。	A
その他	学校運営と組織	コロナ禍後に初めて行われた千葉県学事課の現地検査が無事に終了した。運営上の大きな指摘はなかったが、在校生・保護者に対して十分なサービスを提供できているかどうか、あらためて見直していく必要がある。教員不足、教職員の多忙感は年間を通じて感じており、それらを改善できるような組織づくりが課題である。また、社会情勢に合わせて授業料の値上げを行ったが、私立高校授業料無償化の動きを注視しながら、今後も適時変更を検討していきたい。	B

〔特記事項〕



○学校内外で行われる説明会・相談会風景



○二階堂幼稚園での保育実習風景
本年度より本格再開



○5年連続関東大会出場の柔道部



○マスター講座 中央学院大学での授業
土曜の授業はバラエティに富んだ内容



○体育館が改修され部活動も活性化
他校を招いての合同練習の風景

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

区分	事項	結果	自己評価
教育（保育）	カリキュラム	① 園児が伸び伸びと園生活を楽しみ、自ら主体的に行動できる環境作りを行い、一人ひとりの発達を促した。 ② 古くからの伝統行事を大切に、季節を感じながら興味・関心が持てるよう保育に取り入れた。 ③ 四季を通して、園児がビオトープの生き物や植物に興味関心を持ち、心の成長もはかれるよう保育を行った。 ④ 園外保育を通して、園児が様々な経験や体験をし、知識や技能を身につけ、体力向上にも繋げられるよう活動した。	A
	食育	園児に食の大切さを伝え、保育の中で「育てる・作る・食べる」の体験を楽しめるようにした。また、花や野菜の栽培を通し、感情豊かに、心身の育ちにつながるよう保育を行った。	A
	預かり保育	預かり保育の需要増加に伴い、教員の配置を検討した。また、保護者のニーズを考えながら、安全に十分配慮し、保育環境を整えて充実した保育を行った。長期休み期間には、季節に合った年中行事を取り入れ、楽しく過ごせるよう保育を行った。	B

	大学連携	大学の附属幼稚園として、幼稚園教諭を目指す学生が子どもへの理解を深め、幼児教育の知識を学べるよう援助を行った。また、大学の授業参加等で園児が学生と関わったり、教員が学生に専門指導を行った。園児が大学キャンパスで活動する機会を設け、附属園としての特色を打ち出した。	A
	安全対策	園内の環境整備・点検を行い、園児にとって危険な箇所は修理した。ドアの確実な施錠を行い、防犯カメラを活用するなど安全管理を徹底した。また、課外活動や預かり保育後の駐輪場の安全確保のために外灯を新たに設置し、保護者が安心できるようにした。地域の警察署と連携し、園児・教職員に対する安全指導や講習会を実施し、知識の向上を図った。	A
研究活動	園内外への研修	園外研修会に積極的に参加し、教員一人ひとりの保育技術の向上に繋げた。また、園内研修において教員間で共通課題に取り組み、より質の高い保育を目指している。	B
募集及び 広報活動	広報活動	① 合同説明会に積極的に参加し、広くみどり幼稚園を知ってもらう機会とした。 ② 見学会や説明会の内容や回数を検討し、充実させた。また、園の特色となる給食の試食会を開催し、園児獲得に繋げた。 ③ ホームページを充実させた。また、SNSを活用して園外に保育や情報等を配信した。 ④ プレ保育（みどりクラブ）を充実させ、園児獲得に繋げた。	A
社会貢献・ 地域連携	未就園児親子への支援	① 近隣の子育て世代の方が気軽に参加でき、情報交換の場となるよう、園庭開放や未就園児教室を開催した。また、遊具やおもちゃを充実させ、未就園児が楽しく過ごせるよう配慮した。 ② 子育て講習会や子育て相談会を開催し、子育ての悩み相談や子育てのアドバイス等の企画を実施した。 ③ 小学校と連携を図り、年長児の学校見学の機会を作って就学への期待が持てるようにした。また、地域の中学校の職場体験や高校生を受け入れ、地域貢献を行っている。	A
子育て支援	在園児保護者への支援	① 教育課程後の保護者支援として預かり保育を行い、教員を配置して内容を充実させ、安全に保育を行った。 ② 保護者との連絡や事務処理に活用している ICT ツールの利便性を向上させ、より効率化を図るため、新しいツールの利用を開始した。 ③ 保護者のためのカルチャー講座を開催したり、保護者のサークル活動を支援するなど、幼稚園が保護者のリフレッシュの場となるように環境を整えた。	A

〔特記事項〕



○屋上でのプール遊び



○いもほり親子遠足



○騎馬隊遠足



○1年生との交流会(小学校へ)



○発表会・みどりクラブ(未就園児親子)



○預かり保育・年長ひまわり組遠足(消防博物館)

<二階堂幼稚園>

区分	事項	結果	自己評価
教育(保育)	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで年長組のみであった専門の指導員による水泳指導の学年を増やし、新たに年中組で実施した。初めての広いプールで、園児たちは興味のある遊具を使って楽しみ、伸び伸びと水の感触を感じ、水中での全身運動を行うことができた。 ・地域の環境を活かし、芋掘りや園外保育、散歩等、自然の中で伸び伸びと体を動かす活動を積極的に取り入れた。また、四季を感じられる自然物を製作に取り入れ、作品展で披露することができた。 	A
	知育	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングの楽しさを感じながら、物事を順序立てて考え、問題を解決する能力を育むことができた。また、プログラミング以外にもiPadを使った活動を行い、自分で考えたことを友達に伝えることでコミュニケーション能力の向上に繋がった。 ・身近にある数字や文字、数量や図形等に触れ、お手紙ごっこや習字、実物のはがきを家族に出す等の遊びや生活を通し、身近なものとして関心を持ち、自らの生活に取り入れ、意欲的に参加させることで、生活に即した知育指導の学びを深めた。 ・読み聞かせサークルをつくることはできなかったが、担任が朝の会や帰りの会で絵本や紙芝居等の読み聞かせを積極的に行い、物語などに親しみ、想像する楽しさを味わいながら、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を身につけさせることができた。 	B

食育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食室と連携を図り、年長組3クラスが主食・主菜・汁物の健康を考えたオリジナルメニューを考案した。3月にメニューが実現し、全園児が食することができた。この経験により、園児は給食ができて上がるまでの過程を知ることができ、実食することで、食への興味関心が高まり、食育指導へと繋がった。 ・ 給食を作ってくれる人たちとの会食の機会を設け、会話や手紙を通し感謝の気持ちを伝えることで、さらに食を大切にしようとする心と体を育むことができた。 ・ 食育に関する絵本や紙芝居を通し、食に関する知識や食を大切に作る食習慣を身につけさせた。 	A
徳育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児たちは、幼稚園生活を通して互いに影響し合い、相手の良さを認め、自己肯定感が育まれる中で、自信を持って行動し、困っている友達や下の学年を思いやる気持ちが芽生えた。園庭開放や幼稚園見学会等で在園児が未就園児に積極的に関わり、挨拶をしたり一緒に遊んだりする行動が未就園児や保護者に伝わり、募集に繋がった。 ・ 異年齢交流や地域交流を通して、優しく接し合い、感謝し合う経験の中で、思いやりの心や協調性、社会性等を育むことができた。 ・ 月刊本や絵本を活用する中で、園児たちが内容を自分の経験と結びつけながら様々な感情に触れ、想像を巡らせ、他人の痛みや思いを知ること、社会的ルールをさらに身につけることができた。 	A
リトミック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研修を積極的に行い、全学年のカリキュラムを共有したことで、子どもの成長段階を踏んだ繋がりのある指導を実践でき、リトミックの質向上に繋がった。 ・ 日頃から園児同士がリトミックを披露し、客観的に学び合う楽しさを味わう機会を活発に設けた。また、リトミック参観で保護者にも園児たちの1年間の成果を発表し、学年を追った変化や園児それぞれの成長を感じてもらうことができた。 	A
大学連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本女子体育大学の子ども運動学科や基礎体力研究所と連携し、年少児から年長児まで全学年の運動遊びの充実を図ることができた。また運動能力測定や身体活動量測定、筋肉量測定を年2回実施し、数値の結果を普段の運動遊びや運動会に活かし、運動能力向上に繋げることができた。運動能力測定の結果は成長ノートにまとめ、保護者に伝えることで、園の取り組みへの理解や家庭で体を動かすことへの意識に繋がった。 	A
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス送迎時の安全対策として、日々の指導や訓練を行い、園児の安全意識を高めることができた。また、乗降後の園児確認をしっかりと実行し、安全管理を徹底したことで、事故なく安全に登降園することができた。 ・ 地域の水害を想定し、我孫子二階堂高等学校への避難訓練を行い、園児に周知することができた。 ・ 地域の警察と連携し、職員の防犯訓練を行い、安全を優先した意志決定や行動選択ができるような意識や技術を高めることができた。また、災害時の避難訓練で学んだ園児の安全対策を、防犯訓練に役立てることができた。園児には交通安全教室を行い、横断歩道の渡り方や交通ルールの理解を深めた。 ・ 設置年数が経過した総合遊具の点検を行った。今後も安全に使用するには経年劣化部分の改修が必要なため、現在業者に見積りを依頼している。 	B

研究活動	園内外研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育終了後や長期休業中に園内外の研修に参加し、新たな知識や技術の習得に努めた。習得したことは全職員で共有し、保育に活かすことができた。 ・ 嗜好調査により各家庭の実態を把握することができたので、給食や食育指導に取り入れた。 	A
募集及び広報活動	未就園児教室の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期入園者のニーズに応えるため、5月から満3歳児クラスの受け入れ人数を増やし、園児獲得に繋げた。 ・ 幼稚園見学会に参加しやすいように、園バス乗車体験を実施したり、充実したプログラム内容にすることで、参加者に二階堂幼稚園の良さをPRした。また、無料の未就園児教室で給食試食会を開催し、未就園児の保護者から好評を得た。 ・ 保育の様子や幼稚園給食を活発にSNSに投稿したり、ホームページを積極的に活用して、未就園児や保育園在園児、遠方に在住の園児の保護者まで、二階堂幼稚園園児の生き生きとした姿や保育内容を公開することで、入園を決めてもらう大切な手段となった。就労している保護者のニーズに応じて、預かり保育を利用しやすいよう、長期預かり保育で弁当の発注を行った。 	B
社会貢献・地域連携	小学校訪問 実習生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年長組が地域の小学校を訪問し、幼稚園と小学校の連携を深めることで、園児が就学に向けての意欲を高めることができた。 ・ 今年度も積極的に実習生を受け入れ、保育者を目指す学生が望ましい保育観や職業に関する専門知識・技能を身につけられるように適切な指導や助言を行った。 	A
その他	バザーの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の協力を得ながらバザーを開催した。園児が使用する遊具や教材の充実に繋がり、園児や保護者から好評だった。また、卒園生や近隣住民も参加し、地域と関わりを持つ機会になり、幼稚園のPRに繋がった。 	A

〔特記事項〕



○水泳指導



○園外保育



○野菜栽培



○調理指導



○年長組 オリジナル給食プレゼンテーション



○年長組 給食会食



○異年齢との交流会



○年長組とお別れ会



○防犯訓練



○交通安全教室



○未就園児教室「にこにこクラブ」



○パザー

<日本女子体育大学附属保育園>

区分	事項	結果	自己評価
教育(保育)	理念	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画・毎月の指導計画に添って保育を行った。 ・体育大学の附属保育園として、自発的に身体を動かしてあそべる環境を整え、運動能力や体力の向上を促した。 ・園児が興味関心のあることを大切に、日常の保育や製作活動に反映させた。 ・食育では、年間を通して野菜栽培や調理活動、栄養士による指導を行い、食材への関心や作って食べる喜びを経験させた。クッキー作り、ギョウザの皮を使ったピザ作り、パン作りなども行った。 ・東京都の事業である「とうきょうすくわくプログラム」に、「水」をテーマとして取り組み、園児が学びに向かえるよう環境を整えた。物が「浮くかな?」「沈むかな?」「屈折して見える」等々、園児たちは水の不思議に気づき、自ら興味関心を持って探究活動を行った。このプログラムは引き続き継続して行うこととし、記録はホームページに掲載している。 	A
募集	世田谷区による決定	<ul style="list-style-type: none"> ・園見学の際、園長または主任が園内を案内し、保育園で過ごす園児の様子を見てもらいながら附属保育園の魅力を伝え、質問に対応した。 	A
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ ・掲示板 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに保育内容や園だより、「とうきょうすくわくプログラム」の記録を掲載し、保育を公開した。 ・路面掲示板を活用して、園だよりの掲示を行った。 	A
社会貢献 地域連携	地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の大東学園高等学校生徒ボランティアの受け入れや、園児と生徒との交流、同高校の体育館を園児の活動で使用させてもらうなど交流ができた。また、船橋希望中学校の職場体験の生徒も受け入れ、保育園の様子を知ってもらうことができた。 	A
大学・高校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や基礎体力研究所との連携 ・みどり幼稚園との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本女子体育大学を含め、大学からの実習生の依頼がなく、保育士育成に貢献することや、連携を取ることができなかった。 ・基礎体力研究所の「乳幼児期における心臓および骨格筋の発育発達と身体活動量の関係」への研究協力や、体力測定を通じて得られた知見を保育に反映させた。 ・みどり幼稚園年長児との交流会を2回行った。子ども同士夏に来たことを覚えており、楽しそうに給食を食べたり、お喋りで盛り上がるなど、年長児同士が交流を楽しんだ。 	B

[特記事項]



○運動能力測定



○運動会 (於：大学総合体育館アリーナ)



○食育 パン作り



○発表会（於：二階堂トクヨ記念講堂）



○発表会 初めての舞台



○みどり幼稚園との交流会



○とうきょうすくわくプログラム

Ⅱ.財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産の部

(単位：百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	25,439	25,496	25,642	27,637	29,082
有形固定資産	17,795	17,276	18,507	21,206	20,551
特定資産	7,003	7,874	6,789	6,189	6,540
その他の固定資産	641	346	345	242	1,991
流動資産	3,243	3,279	5,460	2,627	3,091
合計	28,683	28,775	31,102	30,264	32,173

負債の部、純資産の部

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定負債	991	1,008	3,236	2,987	2,739
流動負債	1,292	1,379	1,458	1,382	2,007
計	2,283	2,387	4,693	4,368	4,747
基本金	31,194	31,339	31,417	32,960	33,041
繰越収支差額	△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008	△ 7,064	△ 5,615
計	26,400	26,387	26,409	25,896	27,426
合計	28,683	28,775	31,102	30,264	32,173

イ) 財務比率の経年比較

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
運用資産余裕比率	216.0%	244.3%	198.4%	127.0%	182.2%
流動比率	251.0%	237.7%	374.6%	190.1%	154.0%
総負債比率	8.0%	8.3%	15.1%	14.4%	14.8%
前受金保有率	285.6%	246.6%	509.0%	248.9%	165.9%
基本金比率	99.9%	99.9%	96.9%	93.6%	94.3%
積立比率	75.5%	76.4%	83.7%	59.8%	74.8%

*上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため合計など数値が一致しない場合があります。
なお、以下の表についても同様です。

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部

(単位：百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	3,270	3,125	3,061	2,977	2,872
手数料収入	59	57	49	50	61
寄付金収入	40	29	39	44	15
補助金収入	1,062	1,037	1,096	996	1,170
資産売却収入	300	100	300	2,200	2,342
付随事業・収益事業収入	189	195	200	206	211
受取利息・配当金収入	95	104	115	99	129
雑収入	118	97	251	126	110
借入金等収入	1	1	2,500	1	1
前受金収入	1,027	1,139	1,006	933	1,547
その他の収入	5,068	1,271	1,768	1,264	552
資金収入調整勘定	△ 1,122	△ 1,129	△ 1,425	△ 1,138	△ 1,142
前年度繰越支払資金	2,275	2,933	2,813	5,120	2,326
収入の部合計	12,381	8,958	11,772	12,878	10,193

支出の部

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	2,655	2,475	2,631	2,367	2,322
教育研究経費支出	1,150	1,070	1,181	1,504	1,343
管理経費支出	504	473	490	511	501
借入金等利息支出	0	0	1	12	11
借入金等返済支出	1	1	0	251	251
施設関係支出	3,524	45	1,643	3,090	357
設備関係支出	69	49	78	208	77
資産運用支出	1,563	1,996	580	2,585	2,769
その他の支出	64	129	127	103	95
(予備費)					
資金支出調整勘定	△ 83	△ 92	△ 78	△ 78	△ 99
翌年度繰越支払資金	2,933	2,813	5,120	2,326	2,567
支出の部合計	12,381	8,958	11,772	12,878	10,193

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位 : 百万円)

科 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	4,691	4,517	4,625	4,376	4,340
	教育活動資金支出計	4,310	4,018	4,302	4,382	4,166
	差引	382	499	323	△ 6	174
	調整勘定等	26	133	△ 284	28	37
	教育活動資金収支差額	408	633	39	22	211
	施設整備等活動資金収支	施設整備等活動資金収入計	4,261	773	1,469	953
施設整備等活動資金支出計	4,692	1,697	2,071	3,598	1,034	
差引	△ 431	△ 924	△ 602	△ 2,645	1,555	
調整勘定等	226	9	△ 51	29	506	
施設整備等活動資金収支差額	△ 205	△ 916	△ 653	△ 2,616	2,061	
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	203	△ 283	△ 614	△ 2,594	2,272	
その他の活動資金収支計	その他の活動資金収入計	921	594	3,182	2,362	407
	その他の活動資金支出計	466	430	261	2,561	2,439
	差引	455	164	2,921	△ 199	△ 2,032
	調整勘定等	1	△ 1	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	456	163	2,921	△ 199	△ 2,032
	支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	658	△ 120	2,307	△ 2,793	240
	前年度繰越支払資金	2,275	2,933	2,813	5,120	2,326
	翌年度繰越支払資金	2,933	2,813	5,120	2,326	2,567

ウ) 財務比率の経年比較

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動資金収支差額比率	8.7%	14.0%	0.8%	0.5%	4.9%

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年推移

(単位：百万円)

		科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,270	3,125	3,061	2,977	2,872
		手数料	59	57	49	50	61
		寄付金	10	11	21	32	16
		経常費等補助金	1,046	1,034	1,048	987	1,073
		付随事業収入	189	195	200	206	211
		雑収入	124	97	251	126	110
		教育活動収入計	4,699	4,519	4,629	4,377	4,342
		科目	決算	決算	決算	決算	決算
	事業活動支出の部	人件費	2,663	2,493	2,621	2,375	2,323
		教育研究経費	1,539	1,446	1,564	2,003	2,045
		管理経費	614	585	604	615	606
		徴収不能額等	6	6	2	14	9
		教育活動支出計	4,822	4,530	4,791	5,006	4,983
		教育活動収支差額	△ 123	△ 11	△ 162	△ 629	△ 641
教育活動外収支	収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		受取利息・配当金	95	104	115	99	129
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	95	104	115	99	129	
	支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		借入金等利息	0	0	1	12	11
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	1	12	11
	教育活動外収支差額	95	104	114	88	119	
	経常収支差額	△ 28	93	△ 48	△ 542	△ 522	
特別収支	収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		資産売却差額	2	0	0	1	1,970
		その他の特別収入	53	27	74	34	101
	特別収入計	54	27	75	35	2,071	
	支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		資産処分差額	185	3	5	6	19
		その他の特別支出	0	129	0	0	0
特別支出計	185	132	5	6	19		
特別収支差額	△ 131	△ 105	69	29	2,053		
(予 備 費)							
基本金組入前当年度収支差額			△ 159	△ 12	21	△ 513	1,531
基本金組入額合計			△ 3,026	△ 270	△ 78	△ 1,549	△ 356
当年度収支差額			△ 3,186	△ 282	△ 57	△ 2,062	1,175
前年度繰越収支差額			△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008	△ 7,064
基本金取崩額			2	125	0	6	275
翌年度繰越収支差額			△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008	△ 7,064	△ 5,615
(参考)							
事業活動収入計			4,848	4,650	4,818	4,511	6,543
事業活動支出計			5,008	4,662	4,797	5,024	5,013

イ) 財務比率の経年比較

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	55.5%	53.9%	55.3%	53.1%	52.0%
教育研究経費比率	32.1%	31.3%	32.9%	44.7%	45.7%
管理経費比率	12.8%	12.6%	12.8%	13.7%	13.6%
事業活動収支差額比率	-3.3%	-0.3%	0.4%	-11.4%	23.4%
学生生徒納付金比率	68.2%	67.6%	64.5%	66.5%	64.2%
寄付金比率	1.0%	0.8%	1.0%	1.3%	0.3%
補助金比率	21.9%	22.3%	22.7%	22.1%	17.9%
経常収支差額比率	-0.6%	2.0%	-1.0%	-12.1%	-11.7%